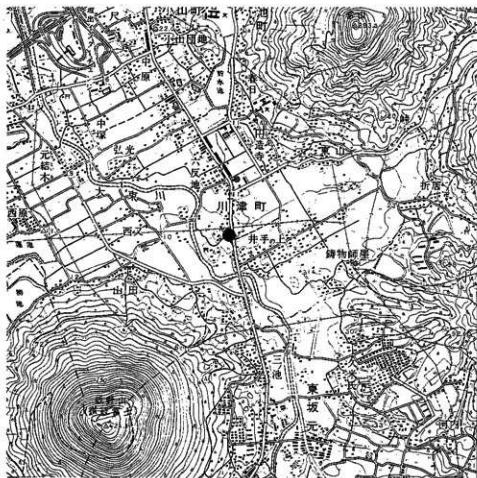


県道改良工事に伴う

埋蔵文化財発掘調査概報

川津井手の上遺跡



平成8年3月

香川県教育委員会

1. はじめに

本報告書は、国道438号線道路改良工事に伴い、香川県教育委員会が平成7年度に実施した、香川県坂出市川津町所在の川津井手の上遺跡の発掘調査概要報告書である。発掘調査は香川県土木部道路建設課から依頼を受け、平成7年11月24日～12月8日まで現地調査を、その後平成8年2月に整理作業を行った。調査は香川県教育委員会事務局文化行政課主任技師森下英治が担当した。

川津井手の上遺跡は、旧鶴多郡内を北流して宇多津町で瀬戸内海に注ぐ中規模河川大東川の東岸平坦地に立地する遺跡である。大東川流域には多数の遺跡が存在し、当遺跡が立地する飯野山（讃岐富士）北側の坂出市川津地区は特に遺跡分布が濃密で、坂出I.C.や高松自動車道建設に伴う発掘調査では弥生時代以降の集落跡（下川津遺跡・川津一ノ又遺跡・西又遺跡等）が各所で明らかにされている。また、周辺は丸亀平野から連続する条里地割が残存しており、古代以降においても土地開発が継続していたことが知られる。

今回調査を行った地点は、大東川支流の城山川と本流との間に位置する。城山川は城山西麓の小扇状地を、条里地割に合致して西流する興味深い河川であり、調査地は両河川が合流して氾濫源が広がる部分に張り出した微高地に相当する。

2. 調査の結果

発掘調査は八幡神社に向かう市道の北側を1区、南側を2区として区分けして実施した。地下の土層

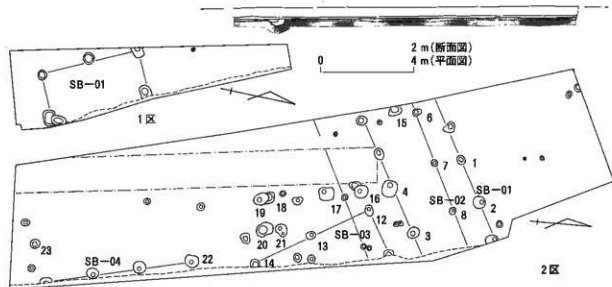


第1図 平成7年度調査地位置図

は両区とも同じで、約20cmの耕作土の下に厚さ2～3cmの橙色土層を挟み、黄色シルトの基盤層が浅い位置で露出する。後述の遺構群はこの基盤層上面で検出されるが、どの遺構も深さ20cm内外であり、削平が著しく及んでいる。検出した遺構はすべて柱穴で、埋土およびその位置関係から合計6棟の掘立柱建物跡が復元できる。建物の柱穴埋土は概ね3種に区分でき、黒灰色系として1区SB-01、2区SB-01～03を、黒褐色系として2区SB-04・06を、灰褐色系として2区SB-05を抽出できる。柱痕を留めるものは少ないが、底面に残る凹部から概ね直径10～15cmの柱であったことが推定される。

〈黒灰色系埋土の建物〉

建物の主軸は北から約30°ほど西に振る。1区SB-01は梁行2間（柱間200cm）、桁行2間以上（柱間190cm）の東西棟の建物である。柱穴は平面方形で一辺50cm程度の



第2図 調査地平面図・断面図

ものが多い。柱穴内より7世紀中葉頃の須恵器片(第4図1)が出土した。2区SB-01は桁行4間以上の東西棟の建物で、柱間はSP-1とSP-2間及びSP-3とSP-4間が220cm、それ以外は150cmを測る。柱間の広い部分が建物中心と仮定すれば、桁行は5間以上となるが、隅柱を特定することができないために全体規模は不明である。2区SB-03は梁間2間(柱間215cm)以上、桁行3間(柱間265cm)以上の南北棟の建物である。柱穴は円形で小規模である。柱穴埋土から7世紀前半の須恵器片(2)が出土している。以上をA群とする。

〈黒褐色系埋土の建物〉

建物の主軸は北から4~10°西に振る。2区SB-04は桁行3間の南北棟の建物で全体規模は不明。2区SB-06は削平が著しく、柱穴を一部残すのみであるが、SP-16~19の並びから3間以上の桁行と考えられる。柱間は約150cmである。両建物の柱穴からは7世紀後半頃を主体とした須恵器等(5~12)が出土している。以上をB群とする。

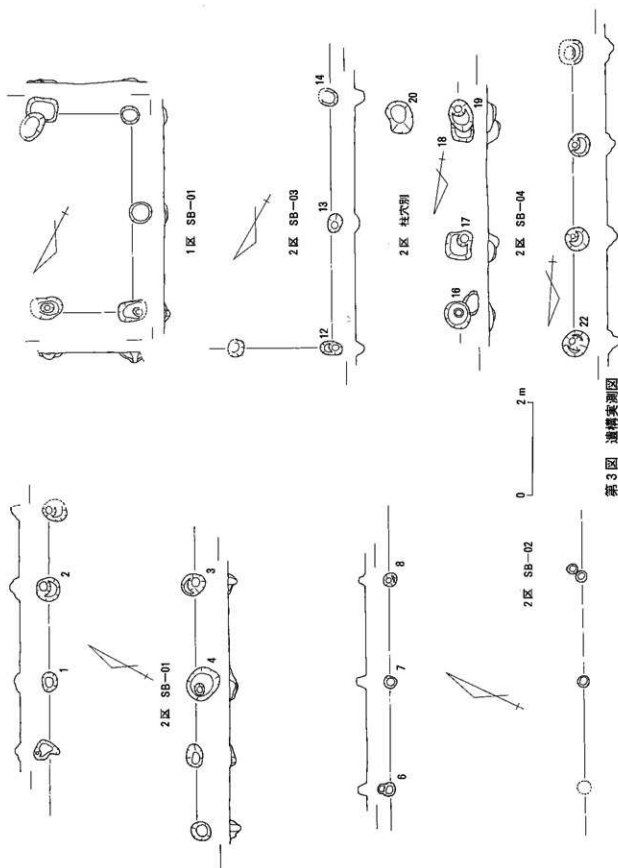
〈灰褐色系埋土の建物〉

建物の主軸は北から30°西に振る。2区SB-02は、SB-01と重複して検出され、桁行4間(柱間225cm)以上、梁間は間数不明で405cmの規模の東西棟の建物である。柱穴埋土中から8世紀中葉以降の土器(13~16)が出土した。以上をC群とする。

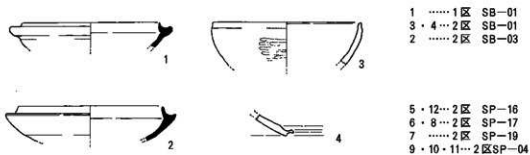
3. まとめ

今回の調査は狭い範囲での調査であり、成果として記すべきことも限定されるが、建物主軸方位と条里地割の関係を追究する観点から、古代初期の建物群が検出された意義は大きい。

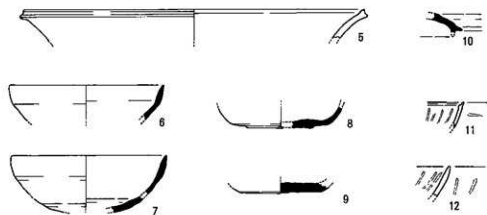
周辺の条里地割は北から約30°西に振っており、奈良時代中頃のC群はこの方向性に規制されたものと考えてよい。A・B群は条里地割に合致するものと、合致しないものがあるが、柱穴出土物からみれば、古墳時代終末期のA群が合致し、白鳳期B群が合致しないという、説明困難な状況である。出土物はいずれも小片が多く、本来の建物時期を示しているとは限らない。今回の調査においては、今後の調査の観点となるべき基礎的事実を提示するに留めた。



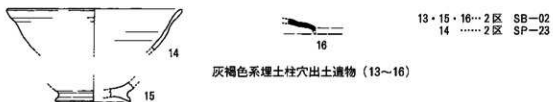
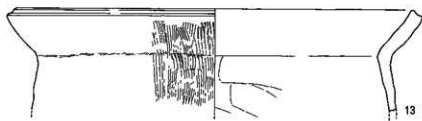
第3区 遺構実測図



黑灰色系埋土柱穴出土遺物 (1~4)



黑褐色系埋土柱穴出土遺物 (5~12)



灰褐色系埋土柱穴出土遺物 (13~16)

0 10cm

第4図 出土遺物実測図



写真1 1区 遺構検出状況



写真2 1区 完掘状況



写真3 2区 遺構検出状況



写真4 2区 完掘状況(北半)



写真5 2区 SB-01・02



写真6 2区 SB-03



写真7 2区 SB-04



写真8 柱穴断面

ふりがな	けんどうかいりょうこうじにともなうまいぞうぶんかざいはくつちょうさがいほう							
書名	県道改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査概報							
副書名	川津井手の上遺跡							
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	森下英治							
編集機関	香川県教育委員会							
所在地	〒760 香川県高松市番町2丁目1-10 NTTビル					TEL0878-31-11		
発行年月日	西暦 1996年3月29日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	経緯 ° ' "	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
川津井手の上遺跡	香川県坂出市川津町 字井手の上	37203	00284	34°17'00"	133°51'30"	平成7年 11月24日～ 12月8日	150	道路工事
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺跡	特記事項		
川津井手の上遺跡	集落跡	古墳・古代	掘立柱建物		土師器・須恵器			

県道改良工事に伴う

埋蔵文化財発掘調査概報

川津井手の上遺跡

平成8年3月29日

編集
発行 香川県教育委員会

印刷 株式会社中央印刷所